三池港

福岡県県土整備部港湾課

〒812-8577　福岡市博多区東公園7-7
☎092-651-1111㈹
URL：http://www.pref.fukuoka.lg.jp

1.概況

三池港は、従来三池炭の輸送に使用していた大牟田港の積出し能力が限界にきたため、潮の干満に左右されることなく安定的に直接船積みのできる人工港として明治35年着工され、6年の歳月をかけ明治41年3月竣工、同年4月開港場に指定された。

大正7年、石炭積出し港として存続していた口ノ津港が閉鎖されたことに伴い、三池港の需要は高まり、さらに海運界の発展に伴い船舶が大型化したため、港湾の浚渫と施設の整備の充実が図られることとなり、昭和7年には内港岸壁に石炭船積機が完成し、石炭積み出し港としての設備を整えるに至った。

さらに、その後の化学工業の驚異的発展は、三池港周辺の大牟田地区に様々な企業を誕生させた。これらの諸工場の原料資材並びに製品の取扱量は急激に増加し、三池港は従来の石炭積出し港としての使命とともに工業港としての設備の増加、改善を必要とすることとなり、昭和9年新たな岸壁の築造に着手し、昭和15年内港北岸壁が完成し、陸上諸施設の整備完了と相まって大いに港湾能力が増強された。

戦後期に入り、昭和26年、港湾法制定とともに、重要港湾に指定され、当時の日本経済の原動力たる三池炭の積出し港として、日本経済の再建に大いに貢献するところがあった。

その後、三池港は施設及び能率面において飛躍的な発展を遂げ、昭和46年、福岡県が港湾管理者となり、産炭地振興及び新産業都市指定の諸施策実現、背後地区産業発展に貢献してきた。

昭和56年、内港北岸壁の延長工事が完了し、また平成4年内港南岸背後地に大牟田物流センターが完成、操業を開始するとともに、平成6年には外国産米穀輸入港に指定された。

しかし、平成9年3月に地域経済、社会活動に大いに寄与した三池炭鉱が閉山し、平成10年7月、石炭積出しも完了したことから、石炭積出し港としての役割を終えた。

そこで、福岡県は県南地域振興策の一つとして、三池港の整備を重点課題と位置づけ、平成10年5月、公共ふ頭を供用開始、平成11年11月には港湾計画を策定し、「安全で使い勝手のよい世界に開かれた港づくり」をキーワードに、内港航路の浚渫、公共ふ頭の増設等、機能的で利便性の高い港湾を目指した整備を進め、平成19年度に多目的クレーンの供用開始、平成22年度に公共岸壁増設部の供用開始、平成23年度に多目的クレーンの増設及び内港航路の増幅・増深（－10m）の完成、平成26年度に公共埠頭の拡張が完了し、令和元年度には更なる公共埠頭の拡張が完了予定である。

このような状況の中、平成15年4月には広域的なリサイクル施設の立地等に対応した静脈物流ネットワークの拠点となる港湾であるリサイクルポートに指定されたほか、平成18年4月には三池港初の国際コンテナ定期航路が韓国釜山港との間に就航し、平成22年11月には2便化するなど、国際物流拠点として発展を続け、コンテナ貨物量は年々増加し、令和元年（速報値）には過去最高を記録している。更に周辺では、地域高規格道路「有明海沿岸道路」の整備が進み、平成24年度に三池港ICが供用開始し、平成29年には、三池港と大川市間が開通したことで、三池港へのアクセスが向上している。

また、平成20年は開港から100年目の節目の年として、記念式典や帆船「日本丸」の寄港等、開港100周年を祝う様々な記念イベントが行われた。

平成27年7月には、三池港は重工業分野における明治期の日本の急速な産業化の証左するものとして、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業」の構成資産の一つとして、国内初の稼働資産を含む世界文化遺産に登録された。世界文化遺産登録にあたり展望所などが整備され、平成30年には開港110周年を記念して、世界文化遺産の見学や三池港クルージングなどの記念イベントが行われた。

今後は、世界文化遺産の価値を保全しながら、世界に開かれた福岡県南部地域の物流拠点として整備していく。